



# システムパラメータとエンタープライズパラメータの設定

- [システムおよびエンタープライズパラメータの初期パラメータの概要 \(1 ページ\)](#)
- [システムとエンタープライズの初期設定タスクフロー \(2 ページ\)](#)

## システムおよびエンタープライズパラメータの初期パラメータの概要

Unified Communications Manager ノードを初めてセットアップする場合は、次のシステム全体のパラメータを検討してください。必要に応じて、導入におけるシステム全体のパラメータを変更できますが、ほとんどの場合、推奨されるデフォルト設定で動作します。

- IP 電話のフォールバック接続モニタ期間を設定します。
- すべてのユーザに対して社内ディレクトリの検索を許可します。
- クラスタの完全修飾電話番号 (FQDN) と組織のトップレベルドメインを設定します。
- ビデオ対応の Cisco Jabber 開始条件を設定します。
- (省略可) クラスタが MLPP を使用している場合は、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) を有効にします。
- (省略可) ネットワークが IPv6 を使用している場合は、IPv6 を有効にします。
- (省略可) リモート syslog サーバ名前を入力します。
- (省略可) 導入をトラブルシューティングするためのコールトレースログを設定します。
- (省略可) 依存関係レコードを有効にします。

# システムとエンタープライズの初期設定タスクフロー

始める前に

Unified Communications Manager のノードとポートの設定を設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">システムおよびエンタープライズのパラメータ設定 (2 ページ)</a>	Unified Communications Manager ノードの初期セットアップに必要なシステム全体のパラメータを設定します。推奨されるシステム設定のリストについては、「 <a href="#">よくある企業パラメータ (4 ページ)</a> 」を参照してください。
ステップ 2	<a href="#">iOS Cisco Jabber の SSO ログインの動作設定 (10 ページ)</a>	制御されたモバイル デバイス管理 (MDM) の環境で IdP による証明書ベースの認証を Cisco Jabber で実行するために必要なエンタープライズパラメータを設定します。
ステップ 3	<a href="#">RTMT への SSO の設定 (11 ページ)</a>	Real-Time Monitoring Tool (RTMT) 用に SAML SSO を有効化するには、Unified Communications Manager を使用してエンタープライズパラメータを設定します。

次のタスク

Unified Communications Manager クラスタで設定されているすべてのデバイスに適用する共通設定の基盤とする、デバイス プールの一部のコア設定を構成します。「[デバイス プールのコア設定の設定タスクフロー](#)」を参照してください。

## システムおよびエンタープライズのパラメータ設定

Cisco Unified Communication Manager 管理を使用して、特定の展開のシステムパラメータとエンタープライズパラメータを設定することができます。最初のシステム設定にとって重要なパラメータがリストされていますが、ほとんどの導入では推奨されるデフォルト設定が有効になっています。

コール トレース ログの有効化など、トラブルシューティングに役立つパラメータは、ネットワークのパフォーマンスに影響があるため、問題が解決した後は無効にする必要があります。

ほとんどのパラメータは、変更を有効にするためにすべてのデバイスをリセットする必要があります。すべての設定手順を完了してから、すべてのデバイスをリセットしてください。すべてのデバイスをリセットするのは、稼働率の低い時間帯に実行することを推奨します。



- (注) リリース 10.0(1) から、Unified Communications Manager と IM and Presence Service で同じエンタープライズパラメータが使用されます。IM and Presence Service のエンタープライズパラメータの値を変更すると、変更された値が Unified Communications Manager に対して自動的に更新されます。

## 手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** クラスタの IP 電話が、TCP 接続が使用可能になったときに、プライマリ ノードに戻るまでの時間を、[エンタープライズパラメータの設定 (Enterprise Parameters Configuration)] セクションの [接続モニター間隔 (Connection Monitor Duration)] フィールドに秒数を入力してから、[保存 (Save)] をクリックします。デフォルト値は 120 秒です。
- ヒント** すべてのデバイスをリセットしないで、クラスタ内の影響を受けるデバイスに変更を適用するには、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてからし、[OK (OK)] をクリックします。
- ステップ 3** [ユーザーデータサービスパラメータ (User Data Service Parameters)] セクションの [ユーザー検索をすべて有効にする (Enable All User Search)] セクションで、[True (True)] を選択して、姓、名、または電話番号が指定されていないときに、すべてのユーザーを組織内名簿で検索することを許可します。
- ステップ 4** [クラスタ全体のドメイン設定 (Clusterwide Domain Configuration)] セクションで、クラスタ全体のドメインをセットアップします。
- [組織の最上位ドメイン (Organization Top Level Domain)] フィールドで組織の最上位ドメインを入力します。最大長は 255 文字です。
  - [クラスタの完全修飾ドメイン名 (Cluster Fully Qualified Domain Name)] フィールドに、クラスタの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。最大長は 255 文字です。
- 複数の FQDN はスペースで区切る必要があります。アスタリスク (\*) を使用して、FQDN 内でワイルドカードを指定することができます。例: cluster-1.cisco.com \*.cisco.com。
- ステップ 5** Cisco Jabber セクションで、[ビデオ通話を開始しない] フィールドで [False] を選択します。
- ステップ 6** (任意) [Mlpp および機密にアクセスレベルパラメータ (mlpp)] セクションで、マルチレベルの優先順位と [プリエンプロトアクセスレベルパラメータ (mlpp)] を入力し、デバイスが mlpp を使用できるようにします。
- Mlpp サービスのドメインを Mlpp ドメイン識別子フィールドに入力します。このパラメータには 16 進値 (0x で始まる値) を指定できます。

- b) Mlpp 表示ステータスフィールドで [mlpp インジケータをオンにする (on)] を選択します。
- ステップ 7** (任意) [Ipv6] セクションで、[ ipv6 の有効化 ( Enable ipv6) ] フィールドを **True** に設定します。
- ステップ 8** (任意) [ Cisco syslog Agent ] セクションで、リモート syslog サーバーの名前または IP アドレスを [ リモート syslog サーバー名 1 ] フィールドに入力します。サーバー名が指定されていない場合、Cisco Unified Serviceability は Syslog メッセージを送信しません。
- ステップ 9** (任意) [セッショントレース用のコールトレースログの設定] セクションで、コールトレースログを設定して、セッショントレースの SIP コール情報を収集できるようにします。

Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のセッショントレース機能は、トラブルシューティングに役立つコールフロー図を生成するためにこの情報を使用します。

- a) [コールトレースログの有効化 (Enable Call Trace Log)] フィールドを [True] に設定します。
- b) [コールトレースログファイルの最大数] フィールドで、Unified Communication Manager が生成できる SIP コールトレースログファイルの最大数を入力します。

デフォルト値は 2000 です。有効範囲は 5 ~ 4000 です。

- c) 呼追跡ログフィールドには、SIP呼追跡ログファイルの最大ファイルサイズメガバイトを入力します。

デフォルト値は 2 です。有効な範囲は 1 ~ 10 です。

(注) SIP コールトラフィック量が多い期間には、ある程度のパフォーマンスの低下が生じることがあります。システムパフォーマンスの影響を低減するには、[セッショントレースのコール関連の REFER/NOTIFY/SUBSCRIBE SIP メッセージをログに記録する (Log Call-Related REFER/NOTIFY/SUBSCRIBE SIP Messages for Session Trace) ] という Cisco CallManager サービスパラメータを [False] に設定します。これによって、SIP コールトレースから REFER、NOTIFY、および SUBSCRIBE メッセージが除外されます。

- ステップ 10** Ccmadmin パラメータセクションので、[依存関係の有効化 (Enable Records)] フィールドで [True] を選択します。

- ステップ 11** [保存 (Save) ] をクリックします。

- ステップ 12** [リセット(reset)] をクリックし、[OK] をクリックしてすべてのデバイスをリセットします。すべてのデバイスをリセットするのは、稼働率の低い時間帯に実行することを推奨します。

**ヒント** すべてのデバイスをリセットするには、システム内の全デバイスプールをリセットします。

## よくある企業パラメータ

次の表に、組織のトップレベルドメインまたはクラスタの完全修飾ドメイン名など、エンタープライズ設定に使用される共通のエンタープライズパラメータを示します。詳細なリストを見

るには、Cisco Unified CM Administration の [システム (System) ] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters) ] メニューを使用します。

表 1: *Unified Communications Manager* の初期設定用の共通エンタープライズパラメータ

パラメータ名	説明
<b>エンタープライズパラメータ</b>	
接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)	<p>クラスタ内の IP 電話がセカンダリ ノードに登録された場合に、このパラメータを使用して、プライマリ ノードが使用可能になった後、それがフォールバックして再登録される前に、IP 電話が待機する時間を設定します。このパラメータは、特定のセキュア Survivable Remote Site Telephony (SRST) ルータに対応するすべてのセキュアなデバイスに影響します。</p> <p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager</i> セキュリティガイド』を参照してください。</p> <p>デフォルトは 120 秒です。</p> <p>変更内容を反映するには、すべてのサービスを再起動してください。</p>
<b>CCMAdmin パラメータ</b>	
依存性レコードを有効化 (Enable Dependency Records)	<p>このパラメータはトラブルシューティングに必要な依存関係の記録を表示します。初期システム設定の間、依存記録を表示することは有益である場合があります。</p> <p>依存関係記録の表示は、高い CPU 使用率のピークをもたらし、コール処理に影響を与える可能性があります。考えられるパフォーマンス問題を回避するために、システム設定の完了後は、このパラメータを無効にします。負荷の低い時間帯またはメンテナンス ウィンドウの間のみ依存関係レコードを表示することを推奨します。</p> <p>有効にすると、Unified Communications Manager を使用してほとんどの設定画面からアクセスできる [関連リンク (Related Links) ] ドロップダウンリストで、[依存関係レコード (Dependency Records) ] を選択できるようになります。</p> <p>デフォルト : False</p>
<b>ユーザ データ サービス パラメータ</b>	
すべてのユーザ検索を有効にする (Enable All User Search)	<p>名前、名前、またはディレクトリ番号が指定されていない場合、このパラメータは会社のディレクトリのすべてのユーザを検索することができます。このパラメータは、[Cisco CallManager セルフケア (Cisco CallManager Self Care) ] (CCMUser) ウィンドウでのディレクトリ検索にも適用されます。</p> <p>デフォルト : True</p>

パラメータ名	説明
<b>クラスタ全体のドメイン設定</b>	
組織の最上位ドメイン (Organization Top Level Domain)	<p>このパラメータは、組織のトップレベルのドメインを定義します。 例：cisco.com</p> <p>最大長：255 文字</p> <p>許可された値は、大文字と小文字、数字 (0-9)、ハイフンとポイント (ドメインラベル区切り記号として) の有効領域を使用します。ドメインラベルの先頭文字をハイフンにすることはできません。最後のラベルの先頭文字を数字にすることはできません。たとえば、cisco.1om といったドメインは無効です。</p>
クラスタの完全修飾ドメイン名 (Cluster Fully Qualified Domain Name)	<p>このパラメータに、このクラスタの1つまたは複数の完全修飾ドメイン名 (FQDN) を定義します。複数のFQDNはスペースで区切る必要があります。アスタリスク (*) を使用して、FQDN内でワイルドカードを指定することができます。例：cluster-1.cisco.com *.cisco.com</p> <p>このパラメータのいずれかのFQDNに一致するホスト部分があるURLを含む要求 (SIP コールなど) は、クラスタと接続されたデバイスにルーティングされます。</p> <p>最大長：255 文字</p> <p>有効な値：FQDNまたは*ワイルドカードを使用した部分的なFQDN。大文字と小文字、数字 (0-9)、ハイフンとポイント (ドメインラベル区切り記号として)。ドメインラベルの先頭文字をハイフンにすることはできません。最後のラベルの先頭文字を数字にすることはできません。たとえば、cisco.1om といったドメインは無効です。</p>
<b>IPv6</b>	

パラメータ名	説明
IPv6の有効化 (Enable IPv6)	<p>このパラメータは、Unified Communications Manager が Internet Protocol Version 6 (IPv6) をネゴシエートできるかどうか、および電話で IPv6 機能をアダプタイズできるかどうかを決定します。</p> <p>このパラメータを有効化する前に、すべてのノードのプラットフォームも含め、他のすべてのネットワーク コンポーネントで IPv 6 を有効にする必要があります。それ以外の場合、システムは引き続き IPv4 専用モードで稼働します。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : False (IPv6 は無効です)</p> <p>IPv6パラメータの変更を有効にするには、以下のサービスと、IM and Presence Service クラスタ内の影響を受けるサービスを再起動する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager</li> <li>• Cisco IP Voice Media Streaming App</li> <li>• Cisco CTIManager</li> <li>• Cisco Certificate Authority Proxy Function</li> </ul>
<b>Cisco Syslog Agent</b>	
リモート Syslog サーバ名 1 (Remote Syslog Server Name 1)	<p>リモート Syslog サーバの名前または IP アドレスを入力します。サーバ名が指定されていない場合、Cisco Unified Serviceability は Syslog メッセージを送信しません。このパラメータは、ログ用に Syslog サーバを使用している場合にのみ必須です。</p> <p>最大長 : 255 文字</p> <p>許可された値:文字の大きさ、数字(0-9)、ハイフン、ポイントの有効なリモート Syslogサーバ名を使用します。</p> <p>別の Unified Communications Manager ノードを宛先として指定することはできません。</p>
<b>Cisco Jabber</b>	
ビデオとともにコールを開始しない (Never Start Call with Video)	<p>このパラメータは、ビデオ コールの開始時に、ビデオを送信するかどうかを決定します。すぐにビデオを送信せずにビデオ コールを開始するには、[True] を選択します。ビデオ コール中はいつでも、ビデオの送信開始を選択できます。</p> <p>このパラメータは、IM and Presence Service のどの設定よりも優先されます。False に設定すると、ビデオコールは IM and Presence Service で指定された設定に従って開始されます。</p> <p>デフォルト : False</p>

パラメータ名	説明
<b>SSO および OAuth の設定</b>	
IOS の SSO ログイン動作 (SSO Login Behavior for iOS)	<p>このパラメータは、制御された Mobile Device Manager (MDM) 導入環境で Cisco Jabber が IdP に対して証明書ベースの認証を実行できるようにする場合に必要です。</p> <p>[iOS向けSSOログイン動作 (SSO Login Behavior for iOS)] パラメータには次のオプションが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [組み込みブラウザの使用 (Use Embedded Browser)] : このオプションを有効化すると、Cisco Jabber は SSO 認証に組み込みブラウザを使用します。このオプションにより、バージョン9より前の iOS デバイスのネイティブ Apple Safari ブラウザで、クロス起動なしの SSO を使用できるようになります。</li> <li>• [ネイティブブラウザの使用 (Use Native Browser)] : このオプションを有効化すると、Cisco Jabber は、MDM 導入環境でアイデンティティプロバイダー (IdP) に対して証明書ベースの認証を実行するために、iOS デバイスで Apple Safari フレームワークを使用します。</li> </ul> <p>(注) 制御された MDM 導入環境である場合を除き、ネイティブブラウザの使用は組み込みブラウザを使用する場合ほどセキュアではないため、このオプションの設定は推奨しません。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>[デフォルト (Default)] : 組み込みブラウザ (WebView) を使用します。</p>



パラメータ名	説明
更新ログインフローを使用した OAuth (OAuth with Refresh Login Flow)	<p>このパラメータは、Unified Communications Manager に接続するときに、Cisco Jabber などのクライアントによって使用されるログインフローを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [有効 (Enabled) ] : このオプションを有効にすると、クライアントで oAuth ベースの高速なログインフローを使用してすばやく効率的にログインできるようになり、たとえばネットワークの変更などによってログインし直す際にユーザが入力する必要がなくなります。このオプションを使用するためには、Expressway や Unity Connection (更新ログインフローが有効化されている互換性のあるバージョン) など、Unified Communications ソリューションのその他のコンポーネントからのサポートが必要です。</li> <li>• [無効 (Disabled) ] : このオプションを有効化する場合、従来の動作のままとなり、旧バージョンの他のシステム コンポーネントとの互換性が保たれます。</li> </ul> <p>(注) Cisco Jabber を使用したモバイルおよびリモートアクセスの導入環境では、更新ログインフローで oAuth をサポートする、互換性のある Expressway バージョンでのみ、このパラメータを有効化することを推奨します。互換性のないバージョンは、Cisco Jabber の機能に影響する場合があります。サポートされているバージョンおよび設定要件については、特定の製品のドキュメントを参照してください。</p> <p>必須フィールドです。 デフォルトでは無効になっています。</p>

パラメータ名	説明
RTMT での SSO の使用 (Use SSO for RTMT)	<p>このパラメータは、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) 用に SAML SSO を有効化するために設定します。</p> <p>[RTMTでのSSOの使用 (Use SSO for RTMT)]パラメータには、次のオプションが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [True] : このオプションを選択すると、RTMTは、SAML SSOベースの IdP ログイン ウィンドウを表示します。</li> </ul> <p>(注) 新規インストール時には、[RTMTでのSSOの使用 (Use SSO for RTMT)]パラメータのデフォルト値は <b>True</b> になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [False] : このオプションを選択すると、RTMT は、基本認証のログイン ウィンドウを表示します。</li> </ul> <p>(注) [RTMT での SSO の使用 (Use SSO for RTMT)]パラメータがない Cisco Unified Communications Manager のバージョンからアップグレードする場合、新しいバージョンに表示されるこのパラメータのデフォルト値は False です。</p> <p>必須フィールドです。 デフォルト : True。</p>

## iOS Cisco Jabber の SSO ログインの動作設定

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** オプトイン制御を設定するには、[SSOの設定 (SSO Configuration)] セクションで、[iOS向け SSOログイン動作 (SSO Login Behavior for iOS)] パラメータで、[ネイティブブラウザの使用 (Use Native Browser)] オプションを選択します。

(注) [iOS向けSSOログイン動作 (SSO Login Behavior for iOS)] パラメータには次のオプションが含まれます。

- [組み込みブラウザの使用 (Use Embedded Browser)] : このオプションを有効にすると、Cisco Jabber は SSO の認証に、組み込みブラウザを使用します。このオプションにより、バージョン 9 より前の iOS デバイスのネイティブ Apple Safari ブラウザで、クロス起動なしの SSO を使用できるようになります。このオプションは、デフォルトで有効です。
- [ネイティブブラウザの使用 (Use Native Browser)] : このオプションを有効にすると、Cisco Jabber は、iOS デバイスで Apple Safari フレームワークを使用し、MDM の導入で、ID プロバイダー (IdP) を利用する証明書ベースの認証を実行します。

(注) ネイティブブラウザの使用は組み込みブラウザの使用ほど安全ではないため、制御された MDM の導入での利用を除いては、このオプションの設定を推奨しません。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

## RTMT への SSO の設定

### 手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。

ステップ 2 RTMT に SSO を設定するには、[SSO の設定 (SSO Configuration)] セクションで、[RTMT での SSO の使用 (Use SSO for RTMT)] パラメータに **True** を選択します。

(注) [RTMT での SSO の使用 (Use SSO for RTMT)] パラメータには、次のオプションが含まれます。

- [True] : このオプションを選択すると、RTMT は、SAML SSO ベースの IdP ログイン ウィンドウを表示します。

(注) 新規インストール時には、[RTMT での SSO の使用 (Use SSO for RTMT)] パラメータのデフォルト値は **True** になっています。

- [False] : このオプションを選択すると、RTMT は、基本認証のログイン ウィンドウを表示します。

(注) [RTMT での SSO の使用 (Use SSO for RTMT)] パラメータがない Cisco Unified Communications Manager のバージョンからアップグレードする場合、新しいバージョンに表示されるこのパラメータのデフォルト値は **False** です。

ステップ 3 [保存 (Save) ]をクリックします。

---

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。